

彙 報

令和二年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。

各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

〔研究会〕

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

十一月二十日（木） 於…高野山大学第一会議室

木下浩良「高野山奥之院豊臣家墓所石塔調査概報」

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年から弘法大師の著作をテキストとして研究会を開催しその研究成果を公表するもの。

※会員

松長有慶、川崎一洋、北川真寛、櫻木潤、佐藤隆彦、武内孝善、土居夏樹、徳重弘志、那須真裕美、藤田光寛、松長潤慶、南昌宏、米田弘仁

※活動実績

『呬字義』の研究会を原則として月二回行った。

（発表者及び日程）

北川真寛…四月十一日、四月二十五日、五月二十三日、六月十三日
土居夏樹…六月二十七日、七月十一日、九月二十六日、十月十日、

十一月七日、十二月五日

川崎一洋…七月二十五日、十月三十一日、十一月二十一日

※刊行物

研究会の成果を、『密教文化研究所紀要』別冊として、以下の内容で発行する。

『呬字義』の研究 令和三年三月 発刊予定

○チベット密教研究会

※趣旨

本研究会は、テンジン・ウセル（チベット仏教ゲルク派最高学位ゲシェー・ハランパ取得者）を中心にチベット語文献の訳読を進め、本学におけるチベット密教研究を推進することを目的としている。今年度も、*Grub mtha rin chen phrang gi bka' khrid*をテキストとして開催。

メンバーは以下の通り。

責任者…テンジン・ウセル（ダライ・ラマ法王庁派遣、高野山大学特任准教授）
研究会員…藤田光寛（高野山大学名誉教授）

乾龍仁（高野山大学教授・学長）

奥山直司（高野山大学教授・副学長）

奥田剛（チベット仏教サキャ派ケンポ）

※活動実績（令和二年一月～三年一月時点）

令和二年一月六日、十三日、二十一日、二十七日、五月二十七日、
六月二十五日、七月六日、二十二日、八月三日、十日、三十一日、
九月七日、十四日、二十一日、十月五日、十二日、十九日、二十六日、
十一月九日、十六日、二十三日、三十日、十二月七日、十四日、二十八日、
令和三年一月十八日、一月二十五日

○南山教学研究会・真言教学研究会・宗学連携事業

※これらの事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「令和二年度研究活動報告」（後掲）を参照願いたい。

○聖フランシコ・ザビエルの書簡に基づく宗教間対話研究プロジェクト

※趣旨

本研究会は、イエズス会の宣教師であったフランシスコ・ザビエルの書翰を題材として、高野山大学（密教文化研究所）とシアトル大学の有志者が共同研究を行い、ザビエルの日本滞在時にどのような宗教間対話が行われていたのかを検証することを目的としている。

本年度は、シアトル大学側の研究者が中心となり、ザビエルの書翰を多角的なアプローチで検証した上で、オンラインリモート会議システムを利用して口頭発表を行った。

※研究会メンバー

【高野山大学】

佐藤隆彦（高野山大学教授）
奥山直司（高野山大学教授）

Thierry J. Robouan（上智大学元教授）

菊谷竜太（京都大学白眉センター特定准教授）

徳重弘志（高野山大学密教文化研究所専任研究員）

今中太定（シアトル高野山ヘッドブリスト）

【シアトル大学】

Jason With（シアトル大学教授）

Naomi Kasumi（シアトル大学教授）

Sharon Suh（シアトル大学教授）

Jessica Imanaka（シアトル大学准教授）

Michael Trice（シアトル大学准教授）

Douglas Peduti（シアトル大学講師）

※活動実績

学内研究会

- 第一回 四月七日（火） 佐藤隆彦（口頭発表・質疑応答）
第二回 五月二十六日（火） 菊谷竜太（口頭発表・質疑応答）

シアトル大学との共同研究会

- 第一回 四月二十一日（火） 菊谷竜太（口頭発表・質疑応答）

カンファレンス（オンラインリモート会議システムによる開催）

九月七日（月）

高野山大学とシアトル大学の参加者が発表を行った。各人の発表テーマは、下記の通りである。

- ・ 今中太定 & Jessica Imanaka : Buddhist Social Justice.
- ・ Sharon Suh : Mud, Minerals, and Swamp Lands: Engaging Endo's Silence.

九月八日（火）

シアトル大学の参加者が発表を行った。各人の発表テーマは、下記の通りである。

- ・ Peduti : Philosophy of Language Beneath Xavier's Letters.
- ・ Kasumi : Hanta Maruya.

○巡礼遍路研究会（協力事業）

※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

※役員

名誉会長…山陰加春夫（高野山大学名誉教授）

会 長…柴谷宗叔（密教文化研究所受託研究員）

※会員数

約二百名（法人・団体含む）

※活動実績

第七回研究発表会

※新型コロナウイルスの影響により延期。

【講演会】

○人権講演会（共催：高野山金剛峯寺社会人権局）

※新型コロナウイルスの影響により中止

【その他事業】

○私立大学研究ブランディング事業

日時：令和二年十月十四日（水） 於：高野山大学第三会議室

佐藤隆彦（高野山大学教授・副学長・密教文化研究所所長）

事業の経緯と「高野山アーカイブ」の報告

櫻木潤（高野山大学専任講師）

「古絵図であるく高野山」の報告

○高野山聖教調査研究

※趣旨

高野山内寺院が所蔵する聖教類の調査・研究を目的とする。今年度は、清浄心院との間において協定書を締結した。

令和二年度研究活動報告

専任研究員 徳重 弘志

【研究活動概況】

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域（弘法大師の思想とその展開に関する研究、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事している。本年度の成果としては、①チベット語文献を調査対象とした「散逸した密教聖典」の断片の回収、②チベット語文献から回収された『世間出世間金剛タントラ』の佚文に基づく同聖典の位置づけの確定、③日本中世における地獄からの救済者としての観音に対する信仰の受容状況の解明、④日本中世・近世における「宋代翻訳密教経典」の受容状況の解明、といった四点が挙げられる。

①に関しては、八世紀以降に散逸した十一種類の密教聖典（*Guhyaśāstra* や *Sarvaśāstrasamuccaya* など）に着目し、チベット大蔵経デンギュルのタントラ部を調査範囲として、それらの聖典に言及する文献を特定した上で、梵蔵資料における引用文の所在などについて網羅的に整理した。

②に関しては、①で特定した *Laṅkāvatāra-sūtra*（『世間出世間金剛タントラ』）という聖典が、不空が翻訳あるいは撰述した『十八会指帰』で言及されている『世間出世間金剛瑜伽』（『金剛頂経』第五会）と対応することを、当該の文献の佚文を根拠として論証した。

③に関しては、高野山大学（密教文化研究所）とシアトル大学との有志者による共同研究の一環として、十六世紀の日本における地獄からの救済者としての観音について検討を行った。具体的には、密教的な「六観音」が衆生を六道から救済するという平安時代に隆盛した概念が、臨済宗の『諸回向清規』（一五六六年）に取り入れられていることを根拠として、フランシスコ・ザビエルが日本に滞在していた時期にも、観音が地獄からの救済者であるという概念が存続していたことを立証した。

④に関しては、「SAT大蔵経データベース」を活用し、「宋代翻訳密教経典」に言及する中世・近世の日本で撰述された文献を網羅的に調査した。その成果としては、日本の僧侶に強い影響を与えた「宋代翻訳密教経典」の特定や、これまで等閑

視されてきた「漢訳された後期密教經典」の日本における受容の実態解明などが挙げられる。

【研究発表】

・「チベット語文献から回収された『世間出世間金剛タントラ』の佚文」、日本印度学仏教学会 第七十一回学術大会、九月五日（日）、於 創価大学（オンラインリモート会議システムによる開催）。

【論文】

・「チベット語文献から回収された『世間出世間金剛タントラ』の佚文」、『印度学仏教学研究』第六九巻第一号。
 ・「チベット語文献から回収された「散逸した密教聖典」(1) — *Laukikakohantarajyotirka* のチベット語訳校訂テキストおよび和訳」、『高野山大学密教文化研究所紀要』第三四号。
 ・“On belief in Avalokiteśvara as a Savior from Hell in medieval Japan”, 『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊第六号（掲載予定）。
 ・「日本中世・近世における「宋代翻訳密教經典」の受容に関する研究」（令和二年度 一般財団法人仏教学術振興会研究助成 研究成果報告書論考）。

令和二年度研究活動報告

委託研究員 北川真寛

【南山教学研究会活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させた。令和二年度は、新型コロナウイルス流行の影響で研究会の開催を中止するなど、種々の活動が制限される中、次のような活動を実施している。

- ① 南山の論義書の輪読会
- ② 論義に関する調査・研究
- ③ 南山・智山・豊山による論義研究会の会報の発行
- ④ 高野山勸学会への協力
 - i 勸学会における講義の実施
 - ii 勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂
- ⑤ 山内論義で用いられる論義資料の調査と辞典作成

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後もさらにこれらの活動を進めていく。

参加者…土居夏樹 兼任研究所員・高野山大学准教授

北川真寛 委託研究員（事務局）

山本昌芳 高野山大学大学院生

（以上、輪読会発表担当者）

南昌宏 高野山大学教授

中西雄泰 高野山引撰院

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山本願院
安田弘明 高野山親王院
高柳公禪 元高野山大学密教学科助手
嶋田和日羽 高野山大学大学院生
その他、大学院生・大学生など

【輪読会の開催】

・二月二五日（木）一五時～一六時三〇分
山本昌芳 「無量寿院長覚の自性会因人解釈について」

【真言教学研究会】

・新型コロナウイルス流行に鑑み、講演会と研究会の開催中止。
・『真言教学』第一号を刊行。

【宗学連携事業】

・勸学会の期間（二日廻し）中に、勸学会出仕者に対して毎日講義を行った。
・『秘蔵宝鑰』下半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを校訂した。
・昨年度迄の第一期事業として、問講の謂立を集成した『法談論義拾葉集—釈論篇—』宝性院版・無量寿院版・付録の三冊と書帙を出版し、今年度はそれを山内寺院・研究機関に配布した。

なお本年度は、先般刊行した『法談論義拾葉集—宗義篇—』の正誤表の作成・配布を行い、第二期事業として五年計画によって、法談論義で使われる専門用語や、宝門と寿門で読み方が異なる語句など、問講において参考となる字典（辞典）の作成を目指して、資料の収集や選定、項目の入力作業を行った。

※宗学連携事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の辞典に関しては高野山山内住職と共同で活動している。

密教文化研究所構成員名簿（令和三年三月現在 各々五十音順）

○所長

佐藤隆彦（高野山大学教授・副学長）

○顧問

松長有慶（高野山大学名誉教授）

○専任研究所員

坂口太郎（高野山大学専任講師）

櫻木潤（高野山大学専任講師）

○兼任研究所員

奥山直司（高野山大学教授・副学長）

土居夏樹（高野山大学准教授）

野田悟（高野山大学准教授）

松長潤慶（高野山大学教授）

南昌宏（高野山大学教授）

○専任研究員

徳重弘志（高野山大学非常勤講師 ※ザビエル研究会等）

○委託研究員

今中太定（シアトル高野山ヘッド・プリースト ※ザビエル研究会）

入谷和也（高野七口再生保存委員会事務局 ※ブランディング事業）

川崎一洋（高野山大学特任准教授 ※弘法大師著作研究会）

菊谷竜太（京都大学特定准教授 ※ザビエル研究会）

北川真寛（高野山大学非常勤講師 ※南山教学研究会等）

ティエリ・ロバーム（元上智大学教授 ※ザビエル研究会）

テンジン・ウセル（高野山大学特任准教授 ※チベット密教研究会）
那須真裕美（高野山大学非常勤講師 ※弘法大師著作研究会）
米田弘仁（高野山大学非常勤講師 ※弘法大師著作研究会）

○受託研究員

木下浩良（高野山大学総合学術機構構課長・密教文化研究所事務室長）
静春樹（高野山大学非常勤講師）
柴谷宗叔（巡礼遍路研究会事務局長）

○研究所事務局

木下浩良（前掲）
波多野智人

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

（1）研究所長

（2）専従研究所員

（3）「紀要」編集担当者

2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

（1）「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
（2）「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附 則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成14年5月22日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア

地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

（1）研究所長

（2）研究所員

（3）研究員

（4）編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

入谷和也

密教文化研究所委託研究員

木下浩良

密教文化研究所受託研究員

徳重弘志

密教文化研究所専任研究員

静春樹

密教文化研究所委託研究員

テンジン・ウセル

密教文化研究所委託研究員・高野山大学特任准教授

藤田光寛

高野山大学名誉教授

編集後記（所長）

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十四号をお届け致します。

五人の執筆者による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

○本年度は、新型コロナウイルスの世界的流行により、事業の多くを中止し、またはネット開催に変更を余儀なくされた一年となりました。そのような中で、弘法大師著作研究会では、研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として刊行し、教学の継承と普及、発展に向けて、また一歩前進した年とも位置づけられています。

○今後とも、密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要 第三十四号

令和三年三月二十一日 印刷
令和三年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学
電話(〇七三六)五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五―三
電話(〇七三)四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七